



現状のクラウド利用に欠けるもの

今日の企業環境は、急激に変化し続けています。まったく異なるアプリケーションやデータベース、複数のオペレーティングシステムなどが混在した IT 環境も例外ではなく、技術革新の波にもまれています。企業の IT 環境は、ますますその複雑性が増し、技術的にも高度化されています。その結果、システム構築や管理運用コストがさらに嵩むようになっています。

このような状況において、クラウドコンピューティングの出現は、構築コストや管理運用コストを削減する新たな手段であると目されています。

しかしながら、単純にアプリケーションをクラウド環境 (PaaS) に追いやる、あるいはクラウド上のアプリケーション (SaaS) を使うというだけでは、大きな効果を得ることはできません。

現状の典型的なクラウド利用方法は、ブラウザなどのユーザー インタフェースからクラウド上のアプリケーションにログインし、アプリケーション機能を実行したりビジネス データを閲覧したり、必要であればデータをダウンロードするというものです。取得したデータを他のアプリケーションで利用する場合には、人手によって他のアプリケーションに入力しています。これでは、非効率でリアルタイム性に欠け、ビジネスの要求に充分に応えることができません。

クラウドコンピューティング本来の効果を得るためには、インテグレーション戦略の一環としてクラウドコンピューティングを活用するという視点が不可欠なのです。

クラウドコンピューティングと SOA の融合

インテグレーション技術の SOA とクラウドコンピューティングを融合することで、柔軟性、分散性、スケーラビリティに優れた次世代のビジネス アプリケーションを構築できるようになります。

この次世代のアプリケーション プラットフォームは、業務処理の効率化、コスト削減、売上げの向上、新規マーケット参入の足がかりとして期待できます。

ネットワーク化された経済環境において成功するためのキーは、

1. クラウド環境で実行可能な ESB (エンタープライズ サービス バス) の上に
2. SOA ベースのビジネス プロセスを構築することで
3. バリュー チェインの自動化を実現し、
4. さらにビジネス環境の変化に対するアジャイル性を高めることです。

企業の業務処理プロセスとクラウド環境の統合が迅速に行えるようになれば、より大きな効率化、売上げ増加、新規マーケットへの参入が可能となります。

ハイブリッドな連携とは

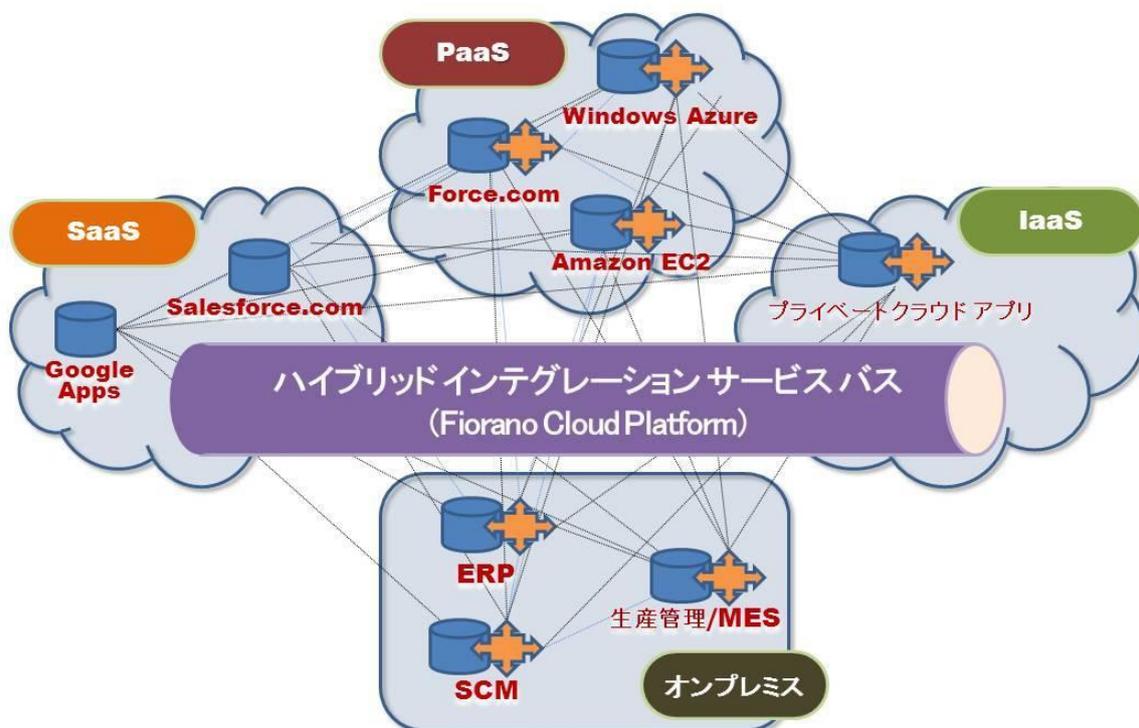
クラウドのハイブリッドな連携とは、単に

クラウド アプリケーション — オンプレミスのアプリケーション

を連携するものでなく、

- クラウド アプリケーション — オンプレミスのアプリケーション
- クラウド アプリケーション — クラウド アプリケーション
- クラウド アプリケーション — クラウド アプリケーション — オンプレミスのアプリケーション

といった、あらゆるクラウド連携モデルをサポートするものを指しています。

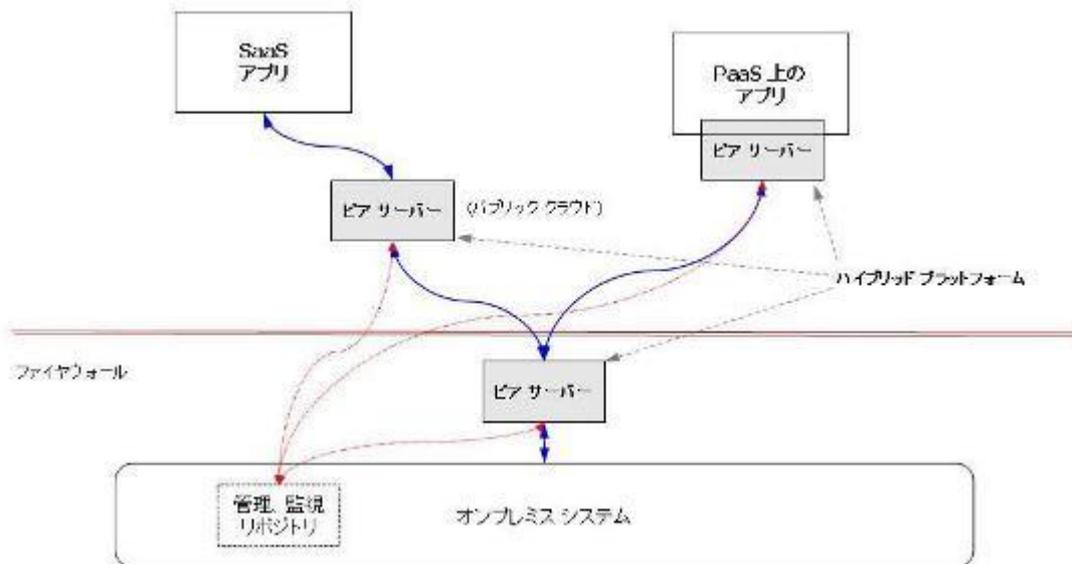


ハイブリッド連携の基盤となる分散処理アーキテクチャ

フィオラノ ソフトウェアが提供する Fiorano Cloud Platform は、ピア・ツー・ピア (Peer-to-Peer) サーバー アーキテクチャによる ESB (エンタープライズ サービス バス) を基盤としています。

ハイブリッドなクラウド連携は、このピア・ツー・ピア アーキテクチャによって実現されます。

下図 は、このアーキテクチャを示しています。



ピア・ツー・ピアによるアプローチは、ピア・ツー・ピア アーキテクチャの持つ分散コンピューティングの優位性を維持しながら、中央管理の利点も有しています。

データソースには、リモートからの Web サービス以外にもメッセージング、ローカルな JDBC などの API でアクセスできるようになります。

分散されて各クラウド内 (SaaS/PaaS) に配置されるピア サーバーは、クラウド内のアプリケーションをより効率的に統合します。ピア サーバーとクラウド内アプリケーションはクラウドのローカルで統合されるため、リモート (クラウド外) のサーバーとの間のネットワークを介したやり取りが不要となるためです。

ピア・ツー・ピア アーキテクチャによる連携の利点

Fiorano Cloud Platform の ESB (エンタープライズ サービス バス) は、汎用的なインフラストラクチャ プラットフォームとして機能するものであり、システム開発者や業務担当者がクラウド環境やオンプレミスにまたがるビジネス プロセスを開発、実行、管理/監視、変更するためのプラットフォームとして機能します。

ピア・ツー・ピア アーキテクチャによるハイブリッド インテグレーション バスは、以下のような利点を有しています。

- イベント処理が可能な分散アーキテクチャ
- サービス コンポーネントによるビジネス プロセスから導き出される高度な疎結合性
- 標準規格のサポート
- フォルトトレランス、信頼性、スケーラビリティ
- 分散環境におけるセキュリティ
- 一度開発したものは、どこにでもデプロイできるアーキテクチャ (Develop once, Deploy Anywhere)
- 稼働中の変更機能

まとめ

クラウドコンピューティングは、すべてのアプリケーション ソフトウェアのデプロイメントの将来に、大きな影響を及ぼします。

SOA は、既存のアーキテクチャやシステムを抽象化するレイヤーを提供しています。このレイヤーによって、ネットワーク上に分散されているサービスを統合し、1つのアプリケーションとして機能するコンポジット アプリケーションを提供できるようになります。SOA をクラウド環境にデプロイメントするためには、システムの抽象化の機能に加え、クラウドやオンプレミスに分散しているサービス（アプリケーション）を統合的に管理する機能が必要となります。現状のクラウド環境では、セキュリティ、各種の開発/管理ツールなどの機能は、クラウド上の個々のアプリケーションが担っています。クラウド環境におけるアプリケーション統合では、これらの機能は統合プラットフォーム上で集約的に提供することが求められます。

クラウド環境に対応したピア・ツー・ピアな ESB では、分散コンピューティング環境に対する開発、デプロイメント、管理などの機能を効果的に発揮することができます。このような統合プラットフォームこそ、今後の企業の IT 基盤に寄与するものです。

■ お問い合わせ先

フィオラノ ソフトウェア株式会社

銀座オフィス

東京都中央区築地 4-1-12-203

TEL : 03-6228-4162

E-Mail : info_jp@fiorano.com

Web サイト : <http://www.fiorano.jp/>